

# PF 懇談会だより

## PF 懇談会総会のお知らせ

PF 懇談会会則第 15 条および細則第 12 条に基づき、PF 懇談会総会を下記の要領で開催いたしますので、会員の皆様のご出席をお願い致します。

総会の定足数は会員数の 1/10 と定められています。ご都合がつかず欠席される方は、委任状（形式自由）を PF 懇談会事務局までご提出していただくようお願いします。

日時：2008 年 3 月 19 日（水）

（PF シンポジウム 2 日目）

場所：高エネルギー加速器研究機構 研究交流センター  
交流ラウンジ

議題：活動報告、会計報告、その他

## PF 懇談会拡大運営委員会報告

PF 懇談会庶務幹事 澤 博 (KEK・PF)

立命館大学 びわこ・くさつキャンパスで行われた日本放射光学会年会・合同シンポの日程に合わせて、表記委員会が開催されたので概要について報告する。開催日時は 2008 年 1 月 12 日（土）13:10～14:10 で、80 名ほどの参加者があった。内容は、

1. KEK ロードマップに関する報告・議論
2. 放射光施設の現状と将来計画及び、ビームライン統廃合に関する報告・議論
3. ERL の進捗状況
4. 運転時間に関する要望書
5. 新規ユーザーグループの承認
6. PF とユーザーグループの連携について

であった。

1 に関しては下村物構研所長により、現在機構の中で議論が進んでいる将来計画に関するロードマップに関する概要説明があった。機構のロードマップの中での放射光関係の位置付けが現状でよいかどうか、懇談会やコミュニティからの意見収集を行いユーザーからの要望書として懇談会として取りまとめ提出する旨の説明が村上懇談会長からなされた。

2 の施設報告は若槻施設長からなされた。戦略 WG の議論、ビームライン新設・統廃合、Areas of Excellence、PF-ISAC、PF-ISAC 分科会（電子物性、医学応用分科会）について説明があった。短時間の説明であったので詳細な説明と議論は 3 月 18、19 日の PF シンポジウムで行われる予定である。

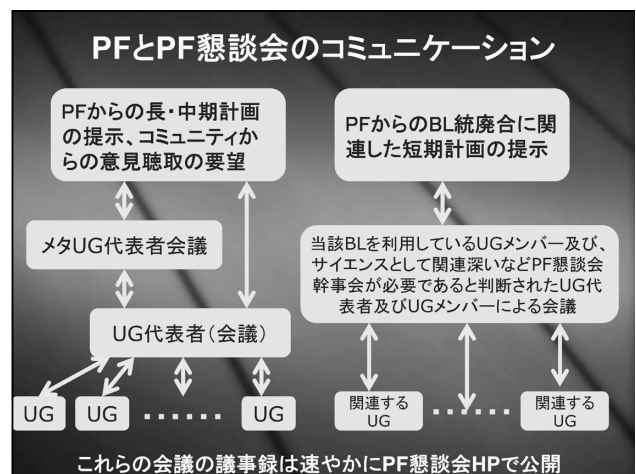
3 の ERL に関する説明は河田 ERL 計画推進室長よりな

された。コンパクト ERL が KEK 内の東カウンターホールに建設されることが認可され、要素技術開発の進捗状況の説明がなされた。関連した研究会が 3 月 16、17 日に KEK で行われる予定である。

4 に関して村上会長から説明がなされた。本年度は厳しい財政状況であることから、放射光施設の運転時間を短縮する旨施設より説明がなされたが、懇談会から年間の運転時間を 5000 時間以上、ユーザー実験時間を 4000 時間以上確保してほしいという要望書を物構研所長並びに施設長あてに提出したことにする説明であった。これらは、下村所長と懇談会長によって文科省の担当部局へも説明に行ったことが報告された。なお、施設側の努力により最終的な PF のユーザー運転時間は 4000 時間以上確保される見通しとなった（注：PF-AR は 3400 時間以上）。

5 については新規ユーザーグループとして東工大佐々木聡教授を代表とする「物質物理ユーザーグループ」の提案に関する説明があり、発足が承認された。

6 はユーザーグループの連携として、メタユーザーグループが発足したことを報告し、この代表者が各メタグループから提案され、メタユーザーグループ代表者会議が行われることの説明がなされた。これにより、PF と懇談会のコミュニケーションは、話し合われる内容によって階層化と分類が行われ、各会議での議事録が速やかに懇談会 HP で公開されることになる旨、会長から説明がなされた（下図参照）。



PF と PF 懇談会のコミュニケーションの構成図。